

17. 機械化を前提とした間伐方法

1. 試験担当者

本場造林部造林第二研究室長 鳥居欣二 ほか

北海道支場造林部造林第二研究室 飯盛功 ほか

四国支場造林研究室長 安藤貴 ほか

2. 試験目的

間伐事業の省力化、間伐経費を軽減し、間伐をより広く実行するため機械力の導入も考えられる。その前提として間伐方法の検討を必要とするが、当面、初期間伐における列状間伐法について検討したい。

また、列植、果植など機械導入を考えた林分の間伐方法もあわせて検討する。

3. 昭和45年度の経過とえられた結果

○本 場

ヒノキ列状間伐試験区の設定、間伐、第1回調査を実施した。

○北海道支場

列状間伐が残存する林木の質的、量的生長に及ぼす影響、密度管理を異にした場合のカラマツ収穫量の比較、日蔭下におけるトドマツ造林木の生長予測などの資料をうるため、中標津管内各種の列状間伐試験地を設定した。

定山渓管内カラマツ列状間伐跡地において列間照度の測定をおこなつた。

○四国支場

高知管内4-2年生ヒノキ林に20m、10m間隔の測線の両側1mの全立木を間伐、5m間隔の測線両側50cmの全立木を間伐する試験区と下層伐、無間伐区の5処理の試験地を設定し、生産構造の調査をおこなつた。

徳島県、高知県、愛媛県林試と共同で、下層間伐、択伐的間伐、列状間伐の試験地を設定し、徳島試験地のスギ林で生産構造を調査した。

4. 昭和46年度の試験計画

○本 場

○スギについて列状間伐試験区の設定

○列状間伐試験区の事例調査（1カ所）

○北海道支場

1. 中標津試験地の間伐後の林分状態の調査

2. 列状に残した林縁の木の生長予測のため耕地防風林の解析をおこなう。

3. 定山渓列状間伐跡地の林冠閉鎖具合と林内照度の推移を調査する。

4. トドマツ造林木の生長予測の資料とするため苗畑において庇蔽試験をおこなう。

○四国支場

ヒノキ20年生林分に下層間伐、択伐的間伐、列状間伐の試験地を設定し生産構造を調査する。